



住吉貝塚の遺物

住居跡地等を地上に復元展示する方法や、覆屋を建設し実物遺構を屋内に展示する方法など様々な手法があります。検討委員会の整備方針により、遺跡周辺に資料館的な施設を整備するの、簡易な説明施設を設置し、将来的に資料館を別の場所に建設し総合的な文化財等の展示をすることも考えられる。

質問 貝塚の整備活用検討委員会について伺う。

答弁 町長「手続き等に関係する行政関係者を中心とした企画委員会を開催して本年度中に町内の行政、民間有識者、関係機

関の方々と整備検討委員会を開催し意見を取り入れ整備構想の青写真を描く。

質問 住吉海岸の砂流失防止対策について伺う。

答弁 町長「沈砂地の工事をして十月中に着手し、砂流出防止対策を講ずる。

質問 住吉に出来る処理場の排水について伺う。

答弁 町長「土壌被覆型接触ばっ気方式で生活雑排水を浄化し、その処理水については処理場前面の町道側溝に放流します。

放流された処理水は、町道住吉大山沿線に建設される沈砂地に流入しそこで地下浸透することになります。

質問 学校の空き教室を一般利用する考えはないのか。

答弁 教育長「国・県への教室の目的外使用の申請も含め、相当な理由がないと許可されないと考えて整備した学校施設を補

助目的に反して財産処分する際には、原則として補助金相当額の国庫納付が必要ですが、補助事業完了後十年を経過した校舎等について有効活用が図られる場合は国庫納付金を不要とする

家庭用太陽光発電システムの支援は。町長：郡内他市町村の状況をみてから検討。

取り扱いき可能なこととす。空き教室の事例として、郷土資料館、子育て支援センター、デイサービスセンター、精神障害者小規模作業所等が考えられます。



有川董温議員

質問 町政懇談会について。

答弁 町長「町政懇談会を実施した最近の状況は、平成二十年五月十八日、六月二十九日かけて行っています。会場を八つに分け、二百三十九名の町民の皆さんが参加し、様々な分野からの質問又は意見等が出されました。町民の声を町政に反映させる等を考えると、開催時期については検討したいと思っております。

ます。

質問 小一プロブレムとも言われ、小学校入学直後の児童が教諭の話を聞かなかつたり、授業中に立歩くなど落ち着かない状態になる、不適応状況が入学直後の四月や夏休み後の九月にあると聞くが、本町にもこのような児童がいるか。

答弁 教育長「各小学校の一年生の様子を学校長に聞いたたり、直接見たりしてはいますが、本町においてそのような児童は見られません。小一プロブレムについては、全国的に広がっています。その原因については、幼稚園や保育所と小学校とのギャップについていけない、教師が実態を

しっかり把握できずに指導がかみ合わないなど様々な要因が考えられます。仮に、そのような状態になった場合には担任一人に任せず、管理職を中心に授業のサポートや個別の指導などの協力体制を取るようになっています。

質問 宮田橋から沖校に通じる三又路の斜面が急に落ち込んでいるため危険である。ガードレールの設置が必要だと思いが、その対応についていかに。

答弁 町長「当地区は昭和五十年代に基盤整備地区で整備が行われ、ほ場整備同時に道路も整備がされています。ご指摘の箇所については、現地を確認後ガードレールを設置したいと思っております。

質問 家庭用太陽光発電システムの支援はできないか。

答弁 町長「家庭用太陽光発電システム補助金については、国からの住宅用太陽光発電導入支援対策補助金がkw、七万円で上限十kw、鹿児島県の推進事